



水を使うこどもたち

6 けんこう健康なくらし

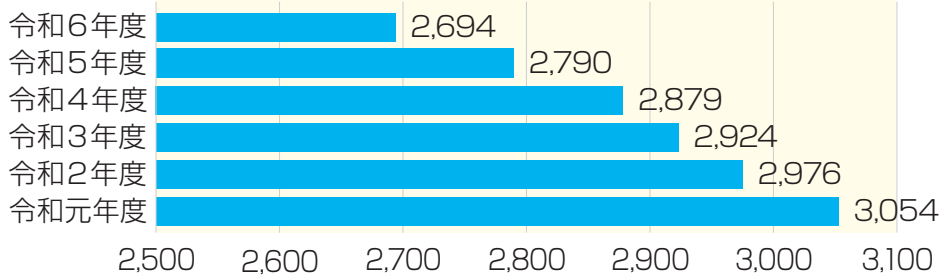
(1) くらしと水

わたしたちは、毎日何の心配もなく水を使っています。じゃ口をひねると、きれいな水が出てくる水道。この水道がどのようにしてつくられたのか、また、どこから水が引かれてわたしたちの家まで来るのか、調べてみましょう。

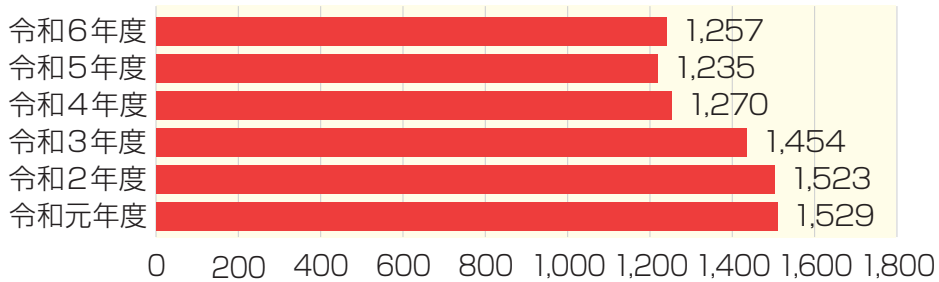
町の水道の様子

町の資料しりょうで見ると、札比内地区さっぴないちくをのぞく、全部の地いきしんしのつに水道が引かれています。また、この水道は、となりの新篠津

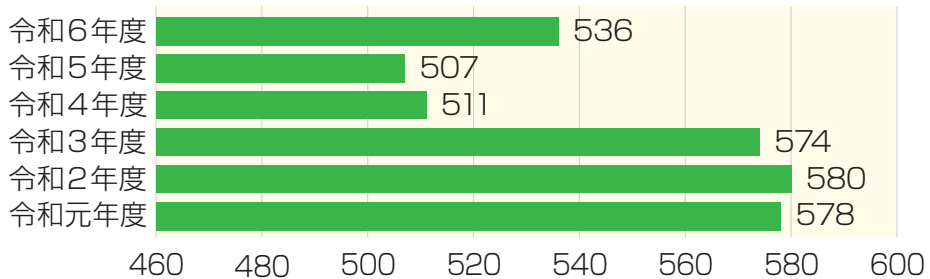
きゅうすい
給水人口



へいきんはいすいりょう
1日平均配水量 (m³)



へいきんはいすいりょう
1人1日平均配水量 (ℓ)



月形町の水道使用のようす

むら
村まで引かれていることがわかりました。わたしたちは、町
の浄水場じょうすいじょうをたずねて、係の方の話听取了きました。



水道ができるまで、月形町はさっぴないちく札比内地区をのぞいて、あまりよい水にめぐまれませんでした。

昔は井戸をほったり川の水を使っていましたが、水のしつが悪く、白いぬのをせんたくすると色が変わってしまったり、お茶が黒くなったり、いやなにおいがしました。

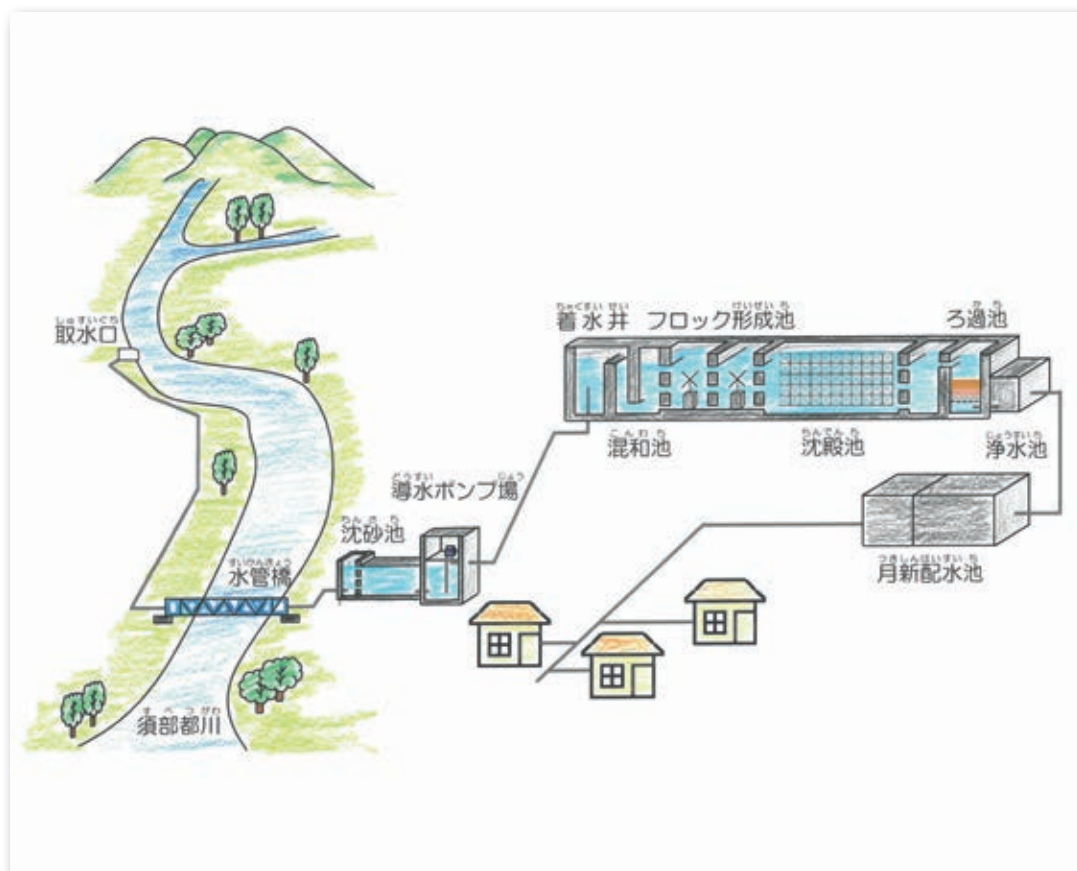
月形の市街地^{しがいち}では、井戸水^{ふべん}では不便^{ふべん}なので、円山^{まるやま}のおくの赤川から水を引いてきて、水道として使っていました。しかし、この水は水田^{すいでん}にも使っていたので、雨がふらないと水が足りなくなって、こまっていました。

また、となりの新篠津村^{しんしのつむら}も水が悪く、そのうえ足りなくてこまっていたので、月形町^{きやうどう}と共同で五耕地山^{ごこうちやま}に『浄水場^{じやうすいじやう}』をつくり、須部都川^{すべつがわ}の上流から水を引いて、おいしくてきれいな水を月形町^{しがいち}（札比内地区^{さっぴないちく}をのぞく）全地いきと、新篠津村^{しんしのつむら}のすみずみまで送るようになりました。

水はどこからきて
いるのだろう。



じやうすいじやう
浄水場の様子

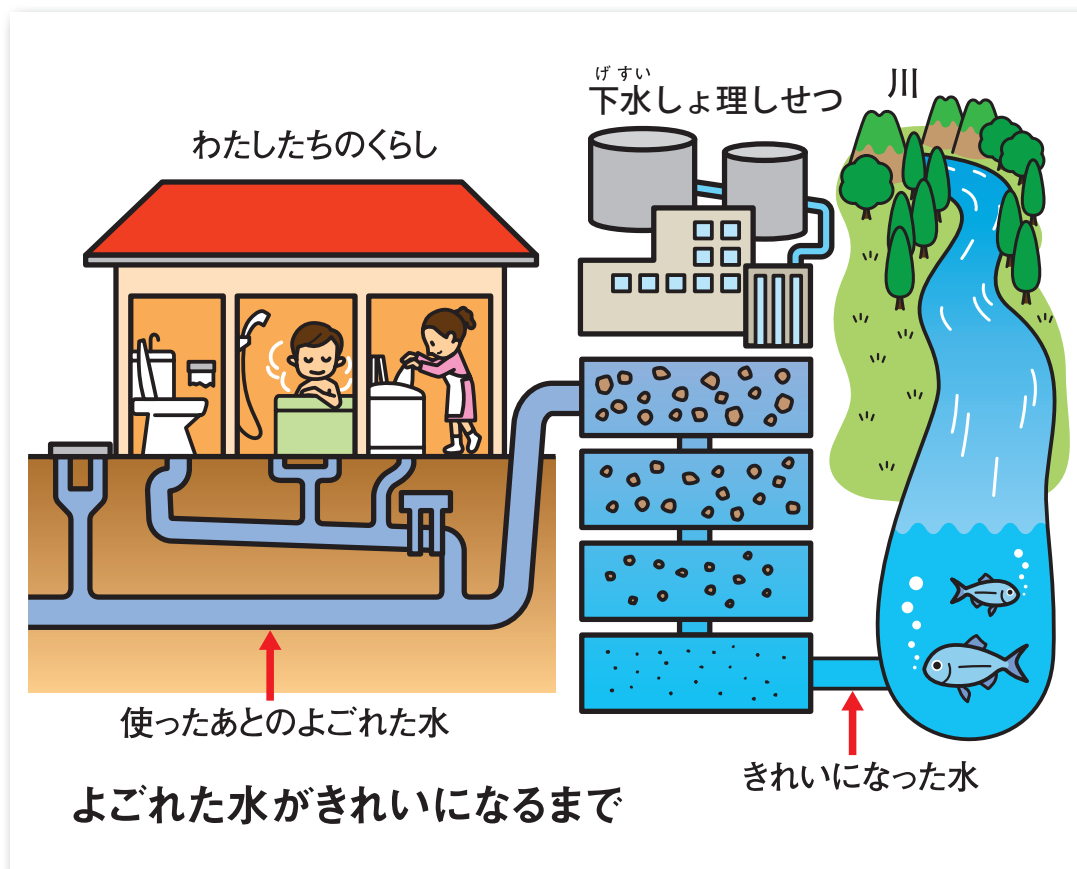


水がきれいになる仕組み

札幌市は、昔からきれいな地下水がたくさんあるので、
 モーターをつけたポンプですい上げ、それを水道管で台所に
 引いて使っているのだそうです。

わたしたちの暮らしにとって、水は飲むだけではなく、田
 や畑にもなくてはならない大切なものです。

月形は、昔、水が足りなくて大変こまっていましたが、月
 形ダムや札幌市貯水池、それに昭和39年（1964）に、
 篠津運河、頭首工ができ、今ではたくさんの水田ができた
 た。



下水しよ理の仕組み

使った水のしよ理・下水道

30年くらい前まで、月形町には下水道がありませんでした。そのため、家の台所、せんとくなどで使われた^{おすい}汚水は、地下にしみこんだり、^{どうろ そっこう}道路側溝を通して、川に流されていきました。これは^{えいせいじょう}衛生上よくないし、^{しぜん}自然をよごすことにもなるので、早く下水道を整えてほしいという地いきの人の願いにこたえ、月形地区^{しゅうまつ}終末しよ理場が平成3年（1991）4月に、市南地区^{しなん}は、平成11年（1999）4月に^{かんせい}完成しました。

た。この完成^{かんせい}により、よごれた水は下水管^{げすいかん}を^{おすい}通^りって汚水しよ^り理^{じょう}場^{じょう}に集められ、きれいな水にしてから川に流されるようになりました。将来的^{しょうらいてき}には、すべての町民^{ちやうみん}が下水道^{りよう}を利用できる^{りよう}ようにしてほしいと思^{おも}いました。

(2) くらしとごみ

わたしたちは、教室や家庭から出されたごみが、どのよう^りにしよ^り理^{じょう}されているか調べてみました。



教室から出るごみ

教室から出されたごみは、可燃^{かねん}ごみや不燃^{ふねん}ごみなどに分けられ、ごみしゅう集車^{えいせい}で衛生センターに運ばれていきます。



ごみしゅう集車



家庭から出されたごみ

家庭から出されたごみはどうなっているのか、ごみが出される日に、家の近所を回ってみました。市街地しがいちのところに、ごみを集める場所（ごみステーション）があって、それぞれの家を出たごみを、ふくろやだんボール箱に入れて、ここに出していました。このごみは、学校のごみと同じようにしゅう集車つに積まれ、衛生センターえいせいへ運ばれていきました。

外観



うめたて場



リサイクル場



月形町衛生センターえいせい



ごみステーション

そこで、わたしたちは^{えいせい}衛生センターへ行ってみることにしました。

^{えいせい}月形町衛生センター

月形町^{えいせい}衛生センターは、月形市街^{しがい}から、国道275号を当^{ごう}別町^{べつちよう}の方へ4kmほど行った所の月ヶ岡^{つきがおか}地区にあります。

国道から^{えいせい}衛生センターの方へ入ると、ごみの重さを量る白^{たてももの}い建物がありました。さらにその向こう側には、ごみ捨て場があり、ショベルカーが、山のように積まれたごみをならしたり、土をかぶせたりしていました。

わたしたちは、^{たてももの}建物の中にいた方に話を聞きました。



えいせい 衛生センターの方の話

この衛生センターは、平成6年に完成しました。ここでは、ふだん、9人の人が働いています。そのうちの4～6人は、ごみ収集車に乗って、ごみステーションに出されたごみを集めています。1人は、衛生センターに直接持ち込まれたごみの重さを量ったり、料金をもらったりしています。後の人は、ごみに土をかぶせたり、空きかんなどの資源ごみを整理したり、汚水しよ理棟の管理をしたりしています。家庭から出たかねんごみ及び大型ごみは、岩見沢市のいわみざわ環境クリーンプラザでしよきやくしよ理をしています。また、ふねんごみは、月形町衛生センターでうめ立てしよ分をしています。資源ごみとゆうがいごみは月形リサイクルセンターで資源化されます。



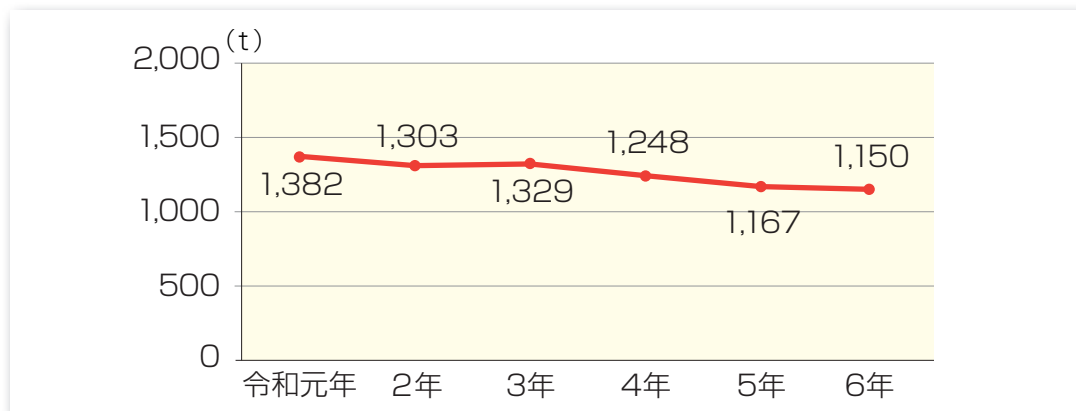
いわみざわ環境クリーンプラザ



やくば 役場の方の話

やくば じゅうみんか かんきょうたんどう
役場の住民課の環境担当の方にも話を聞きました。

「平成6年にできた衛生センターは、まだごみでいっぱいになることはありませんが、ごみの量が年間で約1,150t、一日あたり約3.5tと、たくさんのごみが出されています。月形町では、資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみ、大型ごみに分けて集めているので、空きかんや新聞紙などのリサイクルできる物は、なるべく資源ごみとして出してください。また、町では、生ごみからひ料をつくるコンポストや生ごみ処理機



月形町のごみしよ理量のうつり変わり



一日でたくさんのごみが出るんだね。

を使うことをすすめています。」

このお話を聞いて、資源を大切に^{しげん}するためにも、リサイクル運動などをもっとさかんにしたり、プラスチックや紙ごみの分別をしっかりとしていきたいと思いました。

資源ごみ・有害ごみの分け方・出し方

分別の区分	種類	資源ごみ 出す前の処理	出し方
プラスチック製容器包装	♻️マークが付いたプラスチック製の容器包装 (詳しくは裏面下部をご覧ください。)	①食べ物や飲み物など、汚れが付着しているものは、洗い、水を切る。 ②それ以外の物も必ず使い切るなど、容器や包装のみの状態にする。	透明または半透明の袋に入れて出す。
ペットボトル	♻️マークが付いたジュース、焼酎、しょう油などのペットボトル	キャップ、ラベルをはずし、中を軽く洗い、水を切る。(キャップとラベルはプラスチック製容器包装へ)	透明または半透明の袋に入れて出す。
缶類	アルミ缶	ジュース缶、食品缶	透明または半透明の袋に入れて出す。
	スチール缶	ジュース缶、食品缶 スプレー缶、カセットボンベ	
ビン類	リターナブルびん(生きびん)	ビールびん、一升びんなど	透明または半透明の袋に入れて出す。(出来る限り、販売店や集団回収へ排出して下さい)
	ワンウェイびん(使い切りびん)	栄養ドリンク、食品ビンなど	
紙類	新聞・チラシ	新聞、チラシ、書類、封筒、菓子箱など	ひとりで持てる量に束ねる。 ほどけぬように、しばって出すか透明または半透明の袋に入れる。
	雑誌	雑誌全般	
	ダンボール	ダンボール	
紙パック類	紙パック	牛乳パック、清涼飲料水用紙パック	中を軽く洗い、開いて乾燥後、ひとりで持てる量に束ねる。
鉄類	トタン、鍋、鉄製機器	可能な限り鉄以外の部分を除去する。	運びやすいようにまとめる。(大きさ180cm、重さ60kg以内に)
有害ごみ			
電池類・蛍光灯・体温計	乾電池、ボタン電池、充電式電池、蛍光灯、水銀体温計		電池類・体温計は袋に「電池」など分かるように書く。蛍光灯は購入時の紙箱に入れる。